

成績をとっている。

地域に根ざし、伝統を支える取組

一 はじめに

世良田小学校は、徳川氏発祥の地である世良田東照宮、長楽寺、新田荘歴史資料館等がある歴史公園の一角にある。徳川地区には縁切寺で有名な満徳寺やその資料館もある。

本校は、明治五年の学制の発布の翌年に創立されて、一四三周年を迎えた。かつては関東三大祭と称された「世良田祇園」で栄えた地域で、歴史的環境に恵まれた学校である。ここでは、地域性を生かした本校の実践を二点紹介する。

二 地域環境を生かした実感のある学習 総合的な学習の時間「かがやきタイム」

では、地域学習の伝統文化や世良田祇園の学習に力を入れている。学校周辺が神社仏閣等の歴史的環境に恵まれていることから、地域人材も豊富である。前述の新田荘歴史資料館は本校と隣接しており、社会科ではすぐ学習に利用できる環境である。調べ学習などで文献を使うこともあるが、授業で現地へ行って、直接調べたり聞き取ったりする学習を展開している。

また、学習後の新聞づくりも積極的に進んでいる。実際に実物を見て記事を作ることができると、質の高い新聞になるとともに、国語の思考力・表現力の向上に寄与している。このような取組もあり、全国学力・学習状況調査の国語B問題では大変好

三 世良田祇園祭への貢献

世良田祇園祭は、八坂神社のお祭りとして発祥し、江戸時代より現在まで継続されている。東京神田の明神祭、埼玉県秩父市の妙見祭と並び、一時期は関東三大祇園祭として有名であったが、衰退していった。そのため、六十年ぶりの世良田小唄の復活と新たに作成した踊りについて、学校をあげて地域と協力して普及を行った。

(1) 世良田小唄の復活

世良田小唄は、昭和二十七年に本校の教員が作詞作曲して誕生し、世良田祇園祭で歌われていたが、昭和三十三年の分村合併を期に、わずか数年で衰退していった。

本校の三年生は、総合的な学習の時間で地域理解の学習を行っており、地域を代表する世良田祇園についても調べ学習をしている。昨年度は地域からの要望もあり、六十

年ぶりの世良田小唄復活のために協力した。

祭を通して世良田小唄を広めるには、まず小学生が覚えるのが一番と考え、地域の民謡の先生が六十年以上前の楽譜を元に唄を復元して、三味線の伴奏で児童に教えた。平成二十八年度は、三年生が世良田祇園祭で披露した。また、小唄の普及のために唄や伴奏をホームページで公開するとともにCDにして三年生の家庭に配付した。学校でも給食の時間に連日放送で流した。そして、世良田祇園祭の当日は、開会式のオープニングでステージ発表を行った。

(2) 世良田小唄の踊りの完成
六十年以上前は、唄と共に踊りも存在していた。しかし、唄は歌詞として残っていたが、踊りは忘れ去られていた。そこで、世良田祇園祭の事務局は、踊りの師匠の協力を得て新たに踊りを作成した。

二十九年度は踊りの普及に向けて、まず地域の有志が集まり踊りを覚えた。その後、総合的な学習の時間を使って、それを三・四年生に教えていただき、普及を目指した。



世良田祇園祭で踊りを披露する子どもたち

と祭の盛り上げに大変役立った。

四 むすびに

本校は、児童数二百名程度の小規模校であり、それに伴い職員の数も少ない。そのため地域人材の活用は、学習効果を高めるために重要である。しかし、地域の協力を得て教育活動を進めるだけではいけない。小学生であっても、地域に貢献できるものがある。その一つとして、地域をあげた祭である世良田祇園の繁栄のために役立つことは、子どもたちに地域愛を育むとともに、大人になっても地域のために活躍する精神の育成にもつながると考える。

また、世良田祇園祭のオープニング等の司会は、本校の若手女性教員が二〜三名で毎年担当している。子どもたちが地域のために貢献するだけでなく、職員も地域の祭の盛り上げに一役買うことで、地域の方々から大変喜ばれている。

(文責・校長 大島 修)

学校 ☎ 〇二七六―五二―一〇〇四